

大会特別規程及び注意事項

令和3年度山口県中学校軟式野球選手権大会

〔試合方法〕

- 1 トーナメント方式とする。
- 2 1試合7回とする。それでも勝負が決しないときには、タイブレークを行う。
《タイブレーク》
継続打順で前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は順次前の打者とする。
すなわち、無死1・2塁の状態にして投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまで続行する。
- 3 5回以降7点差が生じた場合、または天候・日没等によって試合続行が不可能な場合（正式試合に該当する場合）はコールドゲームとする。決勝戦も適用する。
なお、5回までに、天候、日没等で試合続行が不可能になり、コールドゲームが適用されない場合は、翌日特別継続試合かまたは再試合にするかなど審判員と大会本部で協議して決定する。

〔特別規則〕

- 1 監督又は引率教員は、試合開始予定時刻の1時間前（第2試合のチームは、1時間半より前に来場しないこと。）にチームの到着を大会本部（会場責任者）に報告する。
- 2 次試合の主将は前試合の4回終了時に打順表5部を本部（会場別）に提出すること。その際攻守を決定する。この時部長又は監督が立ち会うこと。
- 3 組み合わせの若番が一塁側とする。
- 4 場内における打撃練習は行えない。1対1のトスバッティング（ペッパー）のみ可。
- 5 試合前のシートノックは行わない。
- 6 降雨、日没などの天候状態によるコールドゲームは5回以降の得点をもって勝敗を決定するが、試合が規定により不成立の場合、または同得点の場合は翌日特別継続試合かまたは再試合にするかなど審判員と大会本部で協議して決定する。（原則は特別継続試合）
- 7 試合の進行上予定の時刻より早く終了した場合は、支障のない限り引き続いて次の試合を行うものとする。
- 8 会場によっては特別グラウンドルールをつくる。
- 9 投手の投球数制限について
 - ① 大会中の1日の投球数… 100球以内
 - ② 1週間の投球数… 350球以内
 - ③ 試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - ④ タイブレークになった場合、規定投球数以内で投球できる。
- 10 大会最終日の準決勝終了後は、休憩時間を十分確保した上で、決勝戦を実施する。
- 11 特記なき事項については、「中国中学校体育連盟野球部 大会運営に関する取り決め事項」及び「中国中学校体育連盟軟式野球部 用具・装具規定」及び軟式野球専門部の申し合わせ事項に従うこと。

〔注意事項〕

- 1 ・選手は、同一のユニホームを着用し、背番号は1～18とする。
 - ・監督、コーチも同一のユニホームを着用する。監督は背番号30をつけ、コーチは背番号29、28をつける。
 - ・コーチでない教員は、ユニフォームは着用せず、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白のポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。但し、女性部長の服装は考慮する。
 - ・ノッカーは選手と同じ服装であること。従ってスパイク（ポイント可）を着用し、サングラス使用してはならない。
- 2 ダックアウト（またはベンチ）には本大会の登録メンバー以外が入ってはならない。
- 3 登録選手の変更は、登録選手以外の選手のみ認める。「登録選手変更届」は大会1日目の受付時に提出すること。それ以降の提出は、認められない。

〔選手、大会役員等の安全に関わる措置について〕

- 1 開会式・閉会式・表彰式について
今年度は実施しない。
- 2 試合中の休憩タイム（ゴクゴクタイム）実施について
全試合、3回終了後、及び5回終了後に3分間の休憩タイムを取る。休憩タイムの時間中は、ベンチから出ず、十分に給水を取り各選手（審判員、補助員含む）しっかり休憩をするように徹底する。なお、試合再開は、審判員がグラウンドに出たときに、指示をだす。
- 3 大会最終日の準決勝終了後は、休憩時間を十分確保した上で、決勝戦を実施する。休憩時間については、大会本部で協議して決定の上、各チームに伝える。
- 4 同一イニングの守備機会時間が長時間になった場合の給水について
守備側のチームの守備機会時間が原則20分を超えた場合は審判員の指示により、選手に給水を取らせる。給水を終えたら審判員の指示に従い、プレーを再開する。その際の投手の投球練習は行わない。